

コウ 「なあに、悲しいの？笑」  
 レン 「え、もう病みそう。みんなのアイドルユキちゃん先生だぜ？」  
 うーわ、もう無理、あー、やだ、死ぬー！」「ショックを体で表現」  
 マイ 「彼女の目の前でよく言うねえ、ほんと。」「2人の間に入り、嫌味っぽく」  
 レン 「やっぺ!!!」「キョロキョロと逃げようとする」  
 コウ 「はいはい、うちの前でイチャイチャゲンキーン！」「顔の前で腕を交差、少し後退り」  
 マイ 「後で覚えといてよ〜っ？あ、てかてか、ユキちゃんせんせーの結婚相手、知ってる？」  
 コウ 「え、知らなーい！」  
 マイ 「社会科のリョーちゃん…あ、リョースケ先生ね？意外じゃない？3年前には付き合ってたって！」  
 レン 「おま、情報網えつぐ。笑」  
 マイ 「美術部舐めないでよねっ笑」「決めポーズ」  
 コウ 「あーあ、リョースケ先生…、結婚したかったなあ。」  
 マイ 「え、マジ？」「ちょっと引く」  
 先生：下手入り  
 レン 「リョースケ先生だぞ？」「ちょっと引く」  
 先生 「おいこら、誰だ俺の悪口言ってるのは。」「背後からコーちゃんの肩を掴む」  
 マイ 「コーちゃん。」「マイ・レン、コーちゃんを指さし」  
 先生 「え、ココミ？てか、そんなんでもいいんだけどさ。」  
 コウ 「どうでもいいは酷いよお〜!!!」  
 「振り向いて、先生をボカボカ叩く」  
 先生 「レン、お前剣道部の人が呼んでたぞ？」「コーちゃん完全スルー」  
 レン 「え、誰すか？」  
 先生 「OG？なんかよく分かんないけど。」  
 レン 「テルちゃん先輩か！」  
 マイ・コウ 「いってらっしゃーい。」  
 レン 「いってきまーす。」  
 レン：上手ハケ後リュック背負い  
 他：軽く演技した後、下手ハケ  
 テル：リュック背負い、下手入り  
 テル 「あ！レンちゃ〜ん!!!」「手を振る」  
 レン 「テルちゃん先輩！（駆け寄り）どーしたんすか？」「息切らし」  
 テル 「今日これから暇？」  
 レン 「え、まあ、はい。」  
 テル 「ほんと！？あのさ、是非ね、レンちゃんにうちのサークル来て欲しくて！」  
 レン 「サークル？」  
 テル 「そう！！見るだけでいいからさ！お願い〜！」「両手握り、瞳潤ませ」  
 レン 「え、あー、まあ、いいっすよ！」  
 テル 「やったー！（手を上にあげ）じゃあ門のところで待ってるから、すぐ来てねー！」  
 レン 「はーい！」  
 テル：上手ハケ(台詞言いながら)  
 ☆：2s FO 5

レン 「この時は、あんなことになるなんて、思ってもなかった。この幸せが消えるなんて…」  
 “舞台中央、前向いて”



### シーン③『キッカケ』

舞台構成：サークルにたどり着いた2人。  
活動日のはずがメンバーはいない。  
そこに居たのはタツ。  
空気が一気に変わる。

テル：レンの元へ  
☆：5s FI 10

テル 「あ、おまたせー！ごめんごめん、ゆきんこに捕まっちゃって…、行こ行こ！あー！そうそう！それでさ、ショウ子ちゃんってば、間違えてござーって！」“舞台手前、先頭を歩く”

レン 「やばいっすね。笑」

テル 「んもー！びっくり！！笑(間をあげ)あ！ここ！ようこそー、我ら、剣道サークルへー！…って、あれ？」“表情を変えて”

レン 「テルちゃん先輩？」

テル 「…タツ…」“複雑な心境”

タツ 「あ。(イヤホン外し)お久っ！」“立ち上がり”

テル 「なんでいるの…」“嫌がるく悲しみ”

レン 「あ、えっと…、サークル…の…？」

タツ 「どーもっ、タツでーすっ！あ、みんな帰しといたから。笑」

テル 「っ、なんで…、帰ってよ、」

タツ 「ひっどいなあ、折角来たのにさあ〜。笑」“腰を屈め、テルを揶揄うように”

テル 「もう来ないでって、言ったよね、？」

タツ 「来ちゃいけない理由は？」“首傾げ”

テル 「っ…」“目を泳がせ”

タツ 「あはっ、(テルを押し退け、テルはタツの後ろ…舞台右側へ)ねーえ、君名前教えてよ〜。笑”“レンに近づき”

レン 「あ、えっと…レン…です。」“戸惑い”

タツ 「レンねえ。ふーん？なあに(テルを見て)、俺じゃなくてこの子に惚れちゃったんだ、テルは。笑”“指をクルクルさせながら馬鹿にするように”

テル 「帰って、」“小さく”

タツ 「かなし〜なあ〜。笑”“巫山戯た言い方”

テル 「帰って！！！！”“怒り顔に”

タツ 「っ…、はいよ、そーしまーす。笑”“ヘラヘラと”

テル：タツの背を押し無理矢理上手舞台袖へ  
タツ：上手ハケ

テル 「…ごめん！」“明るめに”

レン 「え、えっと、何か、あったんすか…？」

テル 「…あー、あいつ、変な奴だから、ほっといて？関わっちゃダメだよ？」

レン 「え、あ、はい、」

テル 「(ため息)…あーあ、みんな帰っちゃったんだ。」“寂しげに”

レン 「どー…します…？」“気まずそうに”

テル 「折角来てもらったのにごめんねえ、明日は空いてる？」

レン 「明後日なら！」

テル 「じゃあ明後日また来てもらってもいい？  
明後日なら、うん、大丈夫なはず！」

レン 「うっす！」

二人の間に微妙な空気が流れ

レン 「あ…、あー、俺、帰りますねっ？」

テル 「え、あ、うん、ごめんね、？」

レン 「いえ、平気っすよ！あ、なんかあったらいつでも連絡ください！俺、既読マージ早いんで！笑”“精一杯の明るさで”

テル 「なあんだそれ。笑 んもー、優しすぎて困っちゃうなあ。笑”“寂しそうに、でもどこか懐かしむ雰囲気”

レン 「んな事ないっすよ。笑 あ、じゃ、さよなら！」

テル 「はい、また明日ー！」

レン 「お疲れ様でーす！」

レン：上手ハケ

テル：悲しそうにリュックのポッケから1枚の写真を取り出し、下手ハケ

レン：テルのハケと同時に上手入り



### シーン④『誘惑』

舞台構成：帰り道、1人歩くレン。

背後からやってきたのはタツ。  
待ち伏せをしていた。

レン 「タツ先輩…なんだろ、テルちゃん先

輩と何かあったのかなー？  
あ！（立ち止まり）別れた？（観客に聞く）いや、別れたかー？  
（歩き出し）

タツ：上手入り

レン 「そんな雰囲気ではなか…」  
タツ 「わあっ！！」「背後から後頭部を軽く押し」

レン 「わあ！！」「驚き」  
タツ 「1人？」 “自然な流れで先頭へ”  
レン 「あ、え、はい、1人っす。」  
タツ 「そっかあ。俺も一緒に帰っていい？」 “明るく”

レン 「え、ま、まあ…うん、いいっすよー！」

タツ 「なあに、テルに変な事吹き込まれちった？」 “戯けるように”

レン 「いや、別にい…」 “少し気まずそうに”

タツ 「関わんなとか言われた？」 “距離を詰め”

レン 「えっ？あ、いや、んなわけ、！」 “焦り”

タツ 「凶星だあー！」

レン 「すいません、”申し訳なさそうに”

タツ 「いーのいーの、俺のせいだしー？てか、メアド！交換しよーぜ！」 “スマホ取り出し”

レン 「いいっすよー！」 “スマホ取り出し”

タツ 「よし、さんきゅ。」 “スマホ重ねて”

レン 「あ、てか、テルちゃん先輩とのこと、やっぱ、なんかあったんすか、？」

タツ 「んー、あ、公園寄っていーい？寒くね？笑” “気まずさを濁すように”

レン 「あ、もちろん、！」 “特に気にせず”

タツ：自販機で飲み物を買う仕事

タツ 「コーヒー飲めるっしょ？」 “渡して、舞台下手前方へ”

レン 「あ、さっせん、あざす。」 “受け取り”

タツ 「あー、あったまる〜、あ、そーそー。俺さ、前まであのサークル副代表だったんだよねえ。」 “レンの方を振り向き”

レン 「え、副代表って、今テルちゃん先輩がやってる奴っすよね？」

タツ 「あ、今テルがやってんだ。」 “へー、みたいな感じ”

レン 「なんで辞めちゃったんですか、？」 “純粋な疑問”

タツ 「んー、まあ、簡単に言えば、めんどくなっただけ？」 “咄嗟の嘘”

レン 「めんどく…、仕事とか大変だったんすか、？」 “信じた上での純粋な疑問”

タツ 「んま、そんな感じー？やめるわーって言ったら、テルの奴、ブチ切れちゃってさー。笑 で、あんな感じの関係になっちゃったの。笑” “少し悲しげに舞台上手側へ”

レン 「そ…そうなんすね…。」 “頭掻き”

タツ 「今はこんなだけどさ、前はマジでめっちゃ仲良くって、最強の相棒だと思ってたんだけど…笑 価値観合わなかったんだよなあ。」 “昔のことを

思い出して明るくなる気持ち、だがすぐにつつめ息ついて”

レン 「…」 “反応に困った様子”

タツ 「あー、ごめ、反応しにくいよな。笑あ、そうだ。レンってさ、剣道部なんでしょ？」

“レンを指さし”

レン 「あ、はい、そうっす。」

タツ 「練習とかしてんの？」

レン 「んまあ、一応。」

タツ 「毎日？」

レン 「はい。」

タツ 「しんどいっしょ？笑」

レン 「いやー、まあ、疲れはしますね。笑」

タツ 「俺さ、めっちゃいいサブリ持ってんだよね。」 “悪そうな顔して”

レン 「サブリ？」 “少し顔顰め”

タツ 「疲れマジで取れるの。」 “取り出して全力で勧める”

レン 「えー、でもそれ、怪しいヤツじゃないすか？」

タツ 「あははっ！んなことねーよ。笑俺が進めるんだぜ？ガチで効くやつだから。笑」

レン 「ほんとっすかー？」 “半信半疑”

タツ 「マジマジ！ほらこれ、1回試しに飲んでみ？

ほんつとに効くから。」 “袋に入ったクスリ（ラムネ）を渡す”

レン 「ええ。笑」

タツ 「応援してっから。ま、剣道頑張れよー？じゃーなー！」

レン 「ああ、さ、さよならー！」

タツ：下手ハケ（台詞言いながら）

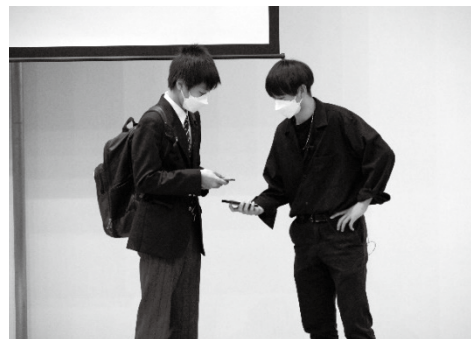
レン 「マジ効くのかな。」

レン：マスク下ろし、クスリを口に入れて顔顰め

レン 「につげえ…、当たり前か、」

ナレーション 「これが、レンの人生が狂うきっかけとなった出来事。タツとの出会いは、これからのレンにとって、悲劇を生み出すことになる。クスリを知ってしまったレン、これからどうなっていくのか。この出来事から 2日後、サークルへ行く日。……事件は起きた…。」

レン：ナレーション中に下手ハケ





### シーン⑤『崩壊』

舞台構成：舞台中央、マイとコーちゃんが何やら話をして  
いる。

そこにテルがやってくる。

コウ 「…(やっぱりそう)だよね…。」 “歩きながら話し”

マイ 「レンくん、昨日何か飲んでて…。」  
“信じたくないから、コーちゃんだけに打ち明けるイメージ。”

コウ 「えっ、やばくない…？」 “目を見開き”

テル：下手入り、2人の背後から声を掛け

テル 「あ！ねーねーねー！」 “2人の元へ駆け寄り”

コウ 「は、はい！」

テル 「レンちゃん…あー、中村レン！知らない？」

マイ 「レンくん、今日来てなくて、”少し悲しげに”

テル 「えー、お休み？サークル来るって言ってたのにい、”拗ね”

マイ 「あ、テルちゃん先輩？」

テル 「はい！テルちゃん先輩！」 “手を上げて”

コウ 「あの、すいません。」 “怒気のこもった雰囲気”

テル 「ん？」 “首傾げ”

コウ 「先輩のサークル行った日から、レン、おかしくて。」 “一語一語大切に紡ぎ”

テル 「…え…？」 “戸惑い”

コウ 「何か、知りませんか？」 “テルの様子の変化を怪しんで”

テル 「…いや…、知ら…ない…かなあ…。」 “誤魔化すように、頭に手を当て”

コウ 「本当ですか？本当に何も知らない？」 “詰め寄り”

マイ 「コーちゃん。」 “止めて”

コウ 「あ…すいません。」 “我に返り”

マイ 「先輩は知らないって言ってる。きつと何かあった(け)…」

テル 「…もしかしたら…。」 “マイに被せ”

レン・タツ：下手入り

タツ 「あー！いたいたー！笑」 “小学生が友達見つけた感じ”

テル 「っ…タツ…、！！」 “予感が確信に変わる”

マイ 「…レン…くん…？」 “様子のおかしいレンに近寄り”

レン 「うい〜！やっほ〜。笑」 “チャラい感じ”

マイ 「今日休みじゃないの…？体調悪いっ

て…、(動揺)

タツ 「今日はねえ、レンはずーっと俺と遊んでたんだよね。！笑」 “肩を組んで同意を求める感じ”

レン 「いえい。笑」 “ピース”

テル 「まさか、タツ、レンちゃんまで…！」

タツ 「なあに、悪い？あはっ、ねーえ、君達もどーお？こーれ。笑」 “袋見せて”

レン 「まあーじで、幸せの世界っすよねえ〜。笑」

タツ 「そーそ、疲れなんてね、ぱーって無くなっちゃう！笑」 “巫山戯て”

テル 「…っ、やめてよ、！！」 “袋を奪おうとして”

タツ 「うるせえなあ、！！」 “奪われる前にテルの左肩を突き飛ばし”

テル 「いっ…た…」 “尻餅ついて”

コウ 「大丈夫ですか、！？」 “テルに駆け寄り”

レン 「タツせんばーい？行きましょーよー！」 “テルを気にせず間を歩いて”

タツ 「え？あー、行こーぜー笑」 “テルを突き飛ばした罪悪感があるも着いていき”

マイ 「レンくん…？」 “手を伸ばし”

レン・タツ：上手ハケ

マイ 「レンくん…っ、！！」 “ショックで崩れ落ち”

コウ 「マイ…。」 “顔伏せ”

テル 「私の…せいだ…。」 “頭抱え”

コウ 「え…？」 “顔上げ”

テル 「私のせい…、私が、サークル見に来てなんて、誘ったからっ…！」 “床殴り、自分を責める”

コウ 「違います、！大丈夫、大丈夫ですから、！」

テル 「タツがいるなんて思わなかった、タツが…、アイツが…っ。

…私のせいでっ…レンちゃんは…！」 “立ち上るが、今にも泣きそうで”

マイ 「大丈夫…ですよ、レンくんは…、戻ってきます…、絶対…。」

コウ 「警察…言うの…？」

マイ 「っ、警察…。」

コウ 「言いたくない…よ。」

マイ 「私たちが、頑張ろうよ。私たちが、レンくんを、戻そ…？

できる、できるよ、

テル 「…っ。」 “俯いてて”

マイ 「タツ…さんも、戻しましょ…？」

コウ 「大丈夫、できますよ、絶対。」

テル 「う…ん…。頑張ろ、頑張ろ！ごめんっ、私が落ちてちゃだめだね！」

マイ 「でも、無理はしないでくださいよ、？」

テル 「だーいじょーぶ！ったく、タツの奴…、見つけたらどうしてやろうかあ…！！」

コウ 「今日は帰りましたよ、作戦会議です！」 “空元氣”

テル 「お疲れ様っ、ごめんね、ほんと。」 “空元氣”

マイ 「大丈夫ですから！では、また！」 “空元氣”